

事故事例に学ぶ

17

交差点右折時の事故



対向大型車の陰からの直進バイクと衝突

事故の概要

発生状況

日 時：平成14年8月某日午後3時30分頃

天 候：晴れ

発生場所：横浜市内の交差点

道路状況

それぞれ片側2車線の市道が交わる信号機のある交差点

事故の当事者

運転者A（4.75トントラック）：42歳、男性

運転者B（50cc原付自転車）：21歳、男性

被害状況

A：損害なし

B：全身打撲、左下肢骨折等（全治2か月）

原付自転車：中破

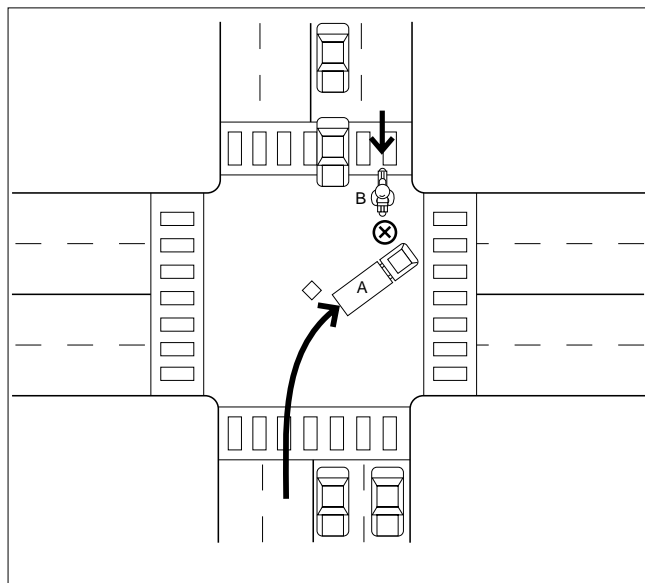
事故状況

Aは運送会社に勤務し、トラック運転経験が1年を経過したプロドライバーで、当日はコンピュータの精密部品を積載し組立工場へ搬送する途中であった。

月末の金曜日ということで、道路は全般的に渋滞箇所が多く、納品時間より既に30分程度遅れていたこともあり、先を急いでいた。

交差点に差し掛かり、右折のためウインカーを出し、中央付近で対向直進車を数台やり過ごしたところ、対向直進道路が徐々に混み始め、ノロノロ運転の状態になったことから、対向の大型トラックが交差点手前で停止した。

Aはその直前を急いで横切り、右折し終えようとした時、ガシャンという音と同時に車体左横に衝撃を受けた。慌てて急ブレーキをかけ、降車してみると、車体左横の中央付近に後輪が回転した状態の原付が横倒しになっており、その数メートル離れた所にBがうつ伏せに倒れていた。



事故の原因

Aは、対向直進の大型トラックが停止したので道を譲ってくれたものと考え、「早く横切らなければトラックの運転者に悪い」と思い、また、トラックに乗務して最近慣れてきたことで油断し、安全確認をせず右折進行したことが事故の原因となった。

一方原付のB側も、大型トラックの左側方を

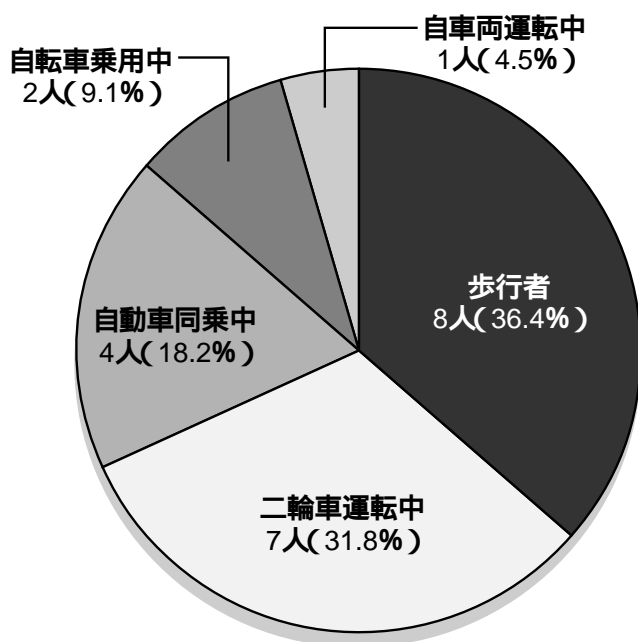
すり抜け交差点に進入するにもかかわらず、安全確認を怠り、減速もせず時速約40kmで、漫然と交差点を通過しようとしており、これも事故に繋がった原因と考えられます。

重大事故に直結する対二輪車事故

平成13年度における当組合の死亡事故は22件発生しています。その内最も多い被害者は歩行者で8人、次いで対二輪車の7人となっており（下図参照）その原因は前方不注視や安全運転義務違反が6件、車間距離不保持が1件となっています。

二輪車は目の前の路面に視線を向けて運転することが多いため、視野が狭く、周囲の安全を確認する時間が短いという特性があります。二輪車側の安全確認や安全確保をあてにせず、トラック側がより前方や側方の安全を確保して運転することが重要です。

平成13年度当組合の死亡事故内訳



事故防止策と安全指導

交差点を右折するときは、対向直進車や対向右折車の陰からの車両の進行、特に直進二輪車の存在を予測し、「徐行」して進行しなければなりません。

この事例のような二輪車との右直事故は代表的なパターンですが、車体の小さい二輪車は四

輪車の陰に入りやすく、発見の遅れや、見落とし易いという特性があります。このため一気に右折するのではなく、頭を小出ししながら「徐行しつつ安全確認」を行い、もし二輪車を発見した場合は、直ちに停止して道を譲るようにしてください。また、渋滞に巻き込まれたり、地理に不慣れで道を間違えて到着予定時間に遅れそうな場合には、安全な場所に車を停車させ、あらかじめ配送先に電話で連絡をする等の措置を講じ、急ぎの心理や焦りを解消することが大切です。

トラックと自動二輪・原付車事故

過去3年間のデータによると、トラックが一方の当事者になった事故は85,000件で、事故全体の10%程度ですが、その内死亡事故が2,200件もあり、死亡事故全体の25%以上を占めています。大型車両であるトラックの事故は死亡事故に繋がりがやすいことがわかります。

また、そのトラックが起こした事故のうち、対二輪車の事故は次の表の通りで、死亡率が発生率を上回り、トラック事故の中でも二輪車事故は、重大事故に直結していることがわかります。

区分	対自動二輪車		対原付車	
	発生率	死亡率	発生率	死亡率
大型トラック	3%	4%	5%	6%
普通トラック	5%	7%	9%	10%
全体	4%	6%	8%	8%

**二輪車は
遠くに見えて
すぐ近く**